

国際ロータリー第2650地区 創立1991年5月23日



あすかロータリークラブ

Asuka Rotary Club Weekly Bulletin

RI 会長：K. R. “Ravi” Ravindran

地区ガバナー：中澤 忠嗣

会長：澤 光彦 エレクト：吉川 隆博

副会長：松中 久 幹事：森下 秀城

クラブ会報委員長：富士川拓也

Vol. 25 No. 14 (No. 1161) 2015年10月8日発行

前回のニコニコ
¥24,000

前期会費預かり分
¥855,000

今年度累計
¥1,235,500



秋露流れて

撮影地：乗鞍岳中腹

撮影者：井上重行

ようこそ！中澤忠嗣ガバナー

“あすかロータリークラブは、あなたの公式訪問を

心からご歓迎申し上げます”



4つのテスト 1.真実かどうか 2.みんなに公平か 3.好意と友情を深めるか 4.みんなのためになるかどうか

●例会日
毎週木曜日 12:30~

●例会場
榎原ロイヤルホテル

●事務局 〒634-0063
橿原市久米町 652 番地の 2

●0744-28-1698
●FAX 0744-28-2885

●URL: <http://asuka-rc.jp/>
●e-mail: info@asuka-rc.jp

第 1161 回 2015 年 10 月 8 日 (木)

- 1 開会点鐘
- 2 ソング「奉仕の理想」
- 3 お客様紹介
- 4 会食
- 5 会長報告
- 6 幹事報告
- 7 出席報告
- 8 ニコニコ報告
- 9 委員会報告
- 10 本日の卓話
「ガバナーアドレス」 中澤忠嗣ガバナー
- 11 閉会点鐘

1160 回報告 2015 年 10 月 1 日 (木)

於：櫃原ロイヤルホテル

ソング

「君が代」「奉仕の理想」

ソングリーダー 住吉 襄一会員

ビジター

マハルザン・ナレンドラ君 (卓話講師)

平田 博也君 (地区米山奨学委員・櫃原 RC)

中谷 昌紀君 (櫃原 RC)

出席報告

	全会員	免除者	出席者	MU	出席率%
第 1160 回	57	24	36 (13)	4	91.30
第 1158 回	57	23	42 (16)	4	92.00

ニコニコ

平田 博也君・中谷 昌紀君

米山奨学生の卓話、よろしくお願ひします。

米田 昌弘君 お月見例会、多数の出席をいただき、ありがとうございました。

田中 和宏君 先週の月見例会を欠席して申し訳ありませんでした。

中西 知君 先週金・土曜日に地区インターアクト委員として、第 4 回全国インターアクト研究会のお世話のお手伝いの下働きの奉仕をさせていただきました。いろいろ勉強したことを、折を見て会員皆様にお伝えしたいと思います。

清水 徹君 本日、米山奨学金の寄付、現金で持参いたしました。

会長挨拶

○クールビズが終わり、ネクタイ着用の季節になりました。私も今日は娘が誕生祝いにくれたネクタイを着用してきました。

○本年度も早や三カ月が過ぎました。なんとか無事に過ごせたのは、森下幹事はじめ会員皆様のおかげと感謝しております。

○先週の月見例会は、大変おいしく楽しい例会でした。親睦・R 家族委員会の皆さん、ありがとうございました。月毎の出席率もすべて 90%以上をクリアしております。来週のガバナー公式訪問でも必ず 100%例会にしたいと思います。ご協力よろしくお願いします。

○さて、本日の卓話は、米山奨学生のマハルザン・ナレンドラ君で、ネパールからの留学生です。50 年前、私の大学にもネパールからの留学生が 2 人いました。「国へ帰ったら何をやるの?」と尋ねると、「僕は帰ったら水力発電所を作るんだ。」と言っていました。まさに日本の幕末から明治にかけて欧米に留学した人たちの気概と同じように思えました。本日の卓話、楽しみにしています。

○25 周年記念事業まであと 1 ヶ月あまりとなりました。ぜひ成功したいと思っております。よろしくお願ひします。

幹事報告

○ポール・ハリス・フェロー

*岩井会員

第 5 回マルチプル・

ポール・ハリス・フェロー

*嶋田会員

第 2 回マルチプル・

ポール・ハリス・フェロー

○ORLI II 終了証授与

吉川会員



○米山奨学 特別寄付 米山功労者授与

*第 2 回米山功労者マルチプル

澤会員

森下会員

松中会員

*第 1 回米山功労者

井村会員

清水会員

仲川会員

和田会員

富士川会員



- ガバナー公式訪問について
- 山本会員の出席免除について

委員会報告

- 出席奨励委員会 久保委員長
出席率 100%例会のお願い

次回の例会

『歴史が教える平常心』

「あきらめるか、あきらめないか」

最後に決めるのは自分自身だと考えておく。

橿原市文化協会 会長 戸田守亮様

「私が感じた日本（日本人）」



米山奨学生
マハルザン・ナレンドラ君

皆様こんにちは。私はマハルザン・ナレンドラと申します。平成2年生まれで今年は25歳になりました。私はネパールから参りました。私は日本へ2010年10月11日に参りました。日本での生活は今年で5年目になります。もともと国で大学に通いながら日本語学校にも行っていました。父は観光ガイドとドライバーの仕事をしておりまして、私にもガイドの仕事をやって欲しかったようで日本語の勉強を始めました。

皆さんは何で日本語？と思っているかと思います。なぜかと言うと、英語は子供の頃から勉強してきたのと、隣の国のインド語はネパール語とほとんどの言葉が似ているのです。ですから、普通に喋れる言葉なのです。初めは中国語と日本語のどちらかの勉強をするよう言われました。そこで私は日本語を選びました。その後は中国語も勉強する予定でした。そして、運が良いことに父の友人がやっている日本語学校で、無料で勉強する機会をもらえました。日本語学校では週2回、1時間半の授業を受けました。そこで1年半ぐらい勉強をしました。ネパールでの勉強だけではなかなか上手になれなくて、その内に、日本の事をもっと知りたいと思うようになり日本に参りました。現在は天理大学で国際学部外国語学科で日本語を専攻しています。今年は4回生で、来年は卒業予定です。大学を卒業してからまた勉強するか、就職するかで悩んでいます。どちらにしても暫くは日本に在留していると思います。

次にネパールのことを少し紹介しようと思います。

日本人に『ネパールを知っていますか？』と聞くと、『ネパールってどこにあるの？アメリカの方なの？それともアフリカの方なの？』と言う人々もいました。皆が知らない訳ではないですが、でも知らない人が多いようです。私もネパールの子供たちの中でNEWARI 民族です。私の母国語はNEWARI 語ですが、他の民族の人達と喋る時は共通語のネパール語でコミュニケーションをとっています。私の国では、少し前までは名字でその人は何民族であるかとか、言葉や仕事や住んでいる地域などが決まっていた。最近は仕事や住む地域はバラバラですが、家庭で使用する言葉は自分の民族の言葉でコミュニケーションをとっています。私の国は、たくさんの民族で成り立っています。その数は約129種類もあります。ですから、ネパールは『色々な種類の花が咲いている庭』と例えられています。

次に、私が日本に来て感じた日本の国の事、日本人の事、国に帰ったら是非皆に伝えたい事をこれから説明していきます。

○時間の差について

日本に来て思った事ですが、時間が経つのが結構早いです。私が日本に来てもう5年経ちました。しかし私自身、つい最近、日本に来たばかりというイメージです。私が日本に来ず、そのままネパールで生活をしているとすると、日本語学校に通いながらアルバイトなどをしたりして、のんびり過ごしていたので時間が経ってしまっている事に全然気づかなかった事と思います。時が経つのは早いもので、自分の中の時間と流れている時間との差に少し驚いています。多分日本の生活が忙しいからではないかと思っています。それから、日本に来て一度も国に帰国した事はありません。そろそろ帰らなければならぬと思い、来年一時帰国しようかと考えております。

○親切や優しさ

日本人は世界中でも親切な人と知られています。私はネパールにいた頃から知っていますが、実際に日本に来てすぐに感じました。日本人の親切なところを言えば、道に迷っていると、急いでいるであるか構わず日本人がわかる範囲まで親切に詳しく教えてくれます。落とし物、何であつてもちゃんと交番まで届けてくれます。バスや電車などで体の不自由な方、お年寄りの方に席を譲ります。

○感謝の気持ち

日本人は何に対しても感謝の気持ちを表します。どんな小さな事にも感謝の言葉『ありがとうございます』をすぐに言います。例えば家族や親しい友達の中でも感謝の気持ちを伝えます。私の国には家族や親しい友人に何かをしてもらうのは、当たり前だと思っています。あまり馴染みのない人でしたら、もちろん感謝の言葉は言います。私がここで感じた

事は誰かに何かをしてもらったら感謝しなければならない。感謝の一言で人の心が変わります。相手の前で、自分のイメージが良くなり、お互いの関係も良くなります。

○恩返し

誰かに何かにやってもらった事は、絶対にいつかは返さなければならないと日本人は誰でも思っています。何事であろうが、それは恩として思い、返せる時には是非返す事。例えばいつもお世話になっています。前回はありがとうございました。ですから、誰かにお世話になる事は、人に与えられる恵みと日本人はいつも思っているじゃないかと私は思っています。

私の国、ネパールの場合、恩返しと言うよりも、借りを返すという事が一般的な考えだと思います。でも日本の場合 恩返し と借りを返すのとは全く違う意味がある。借りを返すのはもちろん、当然の考えだと思いますが、でも恩返しは、多分日本だけではないか思います。

○縮小の文化

日本は何でも小さくする習慣があります。例えば家、車など、狭い場所でも小さく使いやすくしていると思います。小さいからこそ、可愛く、美しく出来上がると日本人が思っているんじゃないかと私は考えています。米国が開発したものに比べるとほとんど小さいものは日本が造っています。だからこそ、日本はこんなに世界中で人気な国になったんじゃないかなと思っています。

○頑張り屋

頑張り屋の意味を知るなら、日本人を例にして、世界のどこの国の人々に、私が自信を持って説明や紹介出来ると思います。日本人の日常生活を見るととても忙しいです。こんなに忙しい生活の中でも、日本人はとても幸せな人生を過ごしている。私はネパールにいた頃や今でも思っている事ですが、なぜ私の国 ネパールはこの21世紀までにも発展出来ない？でも最近日本に生活して5年目立ってようやくわかりました。それは私たち ネパール人が頑張っていないからです。ですから私たちももっと頑張らなければなりません。そんな国から日本に来て、日本人の生活をみれば頑張りやの意味がはっきりピンッ！とくると思います。たまには、日本人は頑張りすぎではないかと思いますが、頑張らないといい事がないと思うようになりました。頑張っているからこそ、こんなに素晴らしい国になっているのです。

○連帯責任

私は今まで色々なアルバイトをしてきました。仕事でミスをする事もたくさんありました。その中で、私が間違えていない時でも私が怒られたりする事があり、その事に対して意味が分かりませんでした。

そして私がミスをしたのに、一緒に働いている日本人が謝ったりすることもあり、それを見てとてもびっくりしました。私のミスなのになぜ他人が謝るんだろうとずっと思っていました。私と同じアルバイトの日本人がいたので、『どうしてか？』と聞いてみたら、これは『連帯責任』だと教えてくれました。例えば、レストランで、お客様の料理に髪の毛が入っていたとします。従業員の誰の髪の毛かという事は関係なく、レストランにいる従業員全員の責任になるからです。なぜならば、お客さんから見れば、従業員の誰がミスしたという事よりも、調理場全体のミスと思われるからと言われました。これで連帯責任の意味がようやくわかりました。私の国の場合、連帯責任よりも、自己責任が多いです。仕事は何であつても、何かあった時ミスをした本人が責任を問われる習慣があります。

○無宗教

インドではヒンズー教の信仰が人々の生活に根づいているし、ヨーロッパではキリスト教、中東では顔を覆ったイスラム教徒の女性が目につきます。日本には多くの神社やお寺がありますが、特定の宗教を信じている人は少ないですね。お正月には神社へ初詣に行き、クリスマスも盛大にお祝いして、お葬式は仏教式でやる…外国人からみたら、いろんな宗教がごちゃまぜ状態です。私から言えば無宗教ともいえる状況の今の日本はとても素晴らしい国であると思います。私の国ネパールやインドでは、今までも宗教のことでお互いに喧嘩になったり、人間関係が崩れたりしています。日本人は、ちょっと不思議な事だと思いますが、私の国では今でも宗教のことで、人を差別したり、してもいい事、してはいけない事が決められたりしています。なによりも一番怖いのは命までも取られる場合もあるのです。ですから、私は日本人の無宗教の考えはとても尊敬しています。

これで私の卓話は終わらせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

奈良県下ロータリークラブ親睦ゴルフ大会 日時：10/7(水) 於：グランデージG.C.

